

出版情報

書名・件名	平成2年版 労働経済の分析
編集者・監修者	労働省
発行日	

「平成2年版労働経済の分析」(労働白書)の発表に当たって

日本経済は、石油危機、円高を克服して発展を続け、国民総生産の規模では昭和63年には世界の14%を占めるまでに至りました。このような発展の背景の一つに多くの勤勉な勤労者の存在があったことを忘れることはできません。この勤勉さは所得の着実な上昇等による生活水準の向上によって支えられてきた面が大きいと思われませんが、最近、勤労者の生活に関する満足度にはこれまでと異なる低下の傾向がみられます。しかも、こうした最近の動きは、景気が回復、拡大し、物価安定が保たれ、実質所得は向上し、失業率も低下しているなかで生じています。

勤労者生活の着実な改善を図り、豊かさやゆとりを実感でき、働きがい、生きがいのある生活を送ることができるようになることは、もとより労働行政にとって重要な課題ですが、こうした状況の中で、その必要性は一層強まってきているといえます。

今年の労働経済の分析では、例年どおり平成元年における労働経済の動きを分析するとともに、上のような観点から満足度低下がみられる所得、資産、自由時間の問題について検討を行い、また勤労者の生活で重要な位置を占める職場を中心とした安全、健康の問題についても検討しました。

この白書が、今後勤労者の生活をより向上させていくための条件を考えるうえでの一助として活用されることとなれば幸いです。

平成2年7月 塚原 俊平 労働大臣
